

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	姫路市総合計画策定審議会 第1分科会 第3回会議
<b>2 開催日時</b>	令和元年 11 月 11 日（月曜日） 18 時 00 分～20 時 10 分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所 北別館 3 階 講義室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	姫路市総合計画策定審議会委員 第1分科会 委員 12 人中 10 人（2 人欠席） 姫路市総合計画策定審議会参与 5 人中 0 人
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可（5 人） 傍聴人（0 人）
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	1. 開会 2. 事務局説明 3. 審議 4. その他 5. 閉会
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開会 (18:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料確認</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手元の次第に基づいて進める。まず、当日資料1「新総合計画における地方創生の考え方について」、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>[説明資料] 資料1 新総合計画における地方創生の考え方について</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見はあるか。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進体制も全く変わりなく、ひめじ創生推進本部がそのまま置かれて、ひめじ創生戦略会議がチェックに入るという体制を続けるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の見直しがあれば別だが、現行のままの組織体制で、創生戦略と総合計画は別の二つの軸で進めていくことになる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンは、将来的方向として47万人というデータがあるが、短期・中期・長期で人口が減っていく状況の中で、姫路としてどういったアクションプランをそれぞれの節目で作し、あまりひどい痛みを市民に与えないようなかたちでソフトランディングさせていくのか。そういった計画が、現在ある程度具体的にできているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、このひめじ創生戦略に掲げているアクションプランが、その具体的な中身ということになる。今後、ひめじ創生戦略は新総合計画の中にビルトインすることになるので、当面はこの新総合計画の令和3年からの10年間の計画の中に、この地方創生の戦略も含まれ、その中で人口減少への対応もしていくことになる。総合計画が令和3年から10年間で終わるので、その次の総合計画を作る段階で、また新たな人口減少への対策の戦略を、次の総合計画の中に盛り込むというかたちになる。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考の「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」に、「地方への人・資金の流れ」とあるが、やはり国の財政も逼迫していて、県の財政も厳しい中で、人口減少が進んできた時に、健全な財政運営ができるのかどうか非常に危惧される場所である。</li> <li>・様々な方策を決める中で、財源のバックアップ、財源の手当てをどのようなかたちで行うのか、後の数字合わせで合わなくなるということにならないよう、確認する必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのあたりは、新しい総合計画についても実行性のある計画にしなければいけない。委員からいただく意見の中で、そういった財源との兼ね合いで、そのまま実施できないこともあるかもしれないので、今後の人口減少にともない、市の収入がどれぐらいになるか、市の財政状況も踏まえたうえで、実際に実行できる、実現性のある計画にしたいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の件で、目指す 2030 年の定住人口 51.8 万人とあるが、それぞれの市の定住人口に関する全国的な統計が存在しているのか、各市が独自に掲げて努力することなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画は、自治体が独自で策定する最上位計画であり、この計画を作るにあたり、国に報告や相談は特にしていない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は地方創生をしばらく掲げていたが、人口などの具体的な項目で、地方創生の推進状況の点検をしていないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創生戦略には、国の点検がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、ひめじ創生戦略会議の中で前年度の事業の取組を報告し、成果目標に対してどういったアプローチができたかということ、委員と議論し報告している。</li> <li>・人口は自治体がそれぞれの係数をかけて出しており、少し高めに出ているところもあるが、姫路市は 51.8 万人で実態を踏まえても、目標としては</li> </ul>

委員	<p>現実的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひめじ創生戦略の基本目標の5番目の播磨の中核都市としての姫路市の位置付けについては、九つの分野目標の中では、具体的にはうたわれず、それぞれの分野の中に入っていかと思う。姫路市単独で生き残るというよりは、圏域全体を含めてということが求められるので、交流と魅力を支える都市基盤のあたりに文言を加えるなど、その考え方を盛り込む必要がある。播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン、8市8町の中核都市連携などがあり、それらの骨になるものを盛り込む必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画には基本構想と実施計画があり、基本構想の中には分野目標があり、その下に政策がある。政策や実施計画の中では、圏域のことについての表現や施策・事業も出て来るが、今、議論いただいているところは総合計画の上の部分であり、そこでは読み取りにくい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野目標より上に、姫路市がこの圏域でどうあるべきかという内容があるべき。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番上の基本構想の都市ビジョンの中の目指す都市像で、そういった観点を持っており、姫路市の総合計画としては播磨と書くわけにはいかないので、賑わい交流拠点の中や、行動指針の②つながり信頼し合う地域づくりというところで、市民、地縁団体、産官学、連携中枢都市圏や市町などと連携するということが記載している。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲げていることがすごく広い。あえて言うと、分野目標の持続可能な行財政運営の中に入っているのだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体が連携するフレームとしての考え方はそこに入っている。実際の施策・事業はそれぞれの分野に入るが、どうやって連携を進めていくかという基本的な考え方は行財政運営分野の中で議論してもらうことになる。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済縮小は目に見えており、その中で痛みの部分も出てくる。高齢者、弱者、子どもなど、痛みを少なくする努力をしながら、我慢をしてもらわなければならない範囲は、ある程度目安として表現したほうがよい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動指針の中で、目指す都市像を実現するために、「地域課題に対して環境、経済、社会のバランスを重視し、限りある地域資源を最大限に生かしながら」とあり、そのままの表現ではないがSDGsも踏まえた記載がある。縮小していく社会の中で、それぞれがある程度の痛みを認容していく必要はある。</li> <li>・総合計画ではあまり痛みの部分を強く書くわけにはいかないので、最大限知恵を出し合って「限りある地域資源を活かす」というところで表現したい。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次に、当日資料2「第1分科会第2回会議 意見一覧」について事務局に説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>[説明資料] 資料2 第1分科会第2回会議 意見一覧</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見・ご質問はあるか。次回に具体的な回答が出るということなので、指摘したことが反映されているかをチェックする。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ活動の推進の主体は、市内の中の団体というイメージか。釜石市ではオープンシティ推進室という部署を設けて、外からの人材を受け入れ、それをまちづくりや活動に生かすということを積極的にされている。10年、20年先を考えると、姫路市の中だけでの取組やNPO、ボランティア、自治会等だけでは、新しい発想も生まれないので、外からの人材をより活用するようなイメージを入れることも必要ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口目標にも関係するが、実際の定住人口は51.8万人という目標を掲げているが、定住人口はなかなか下げ止ることが難しい。姫路市としては観光などに代表される交流人口や、姫路にゆかりのある方などの関係人口</li> </ul>

分科会会長	<p>を増やしていこうと考えている。そういった方々に地域に入っていただいてまちづくりを進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野目標の冒頭のところを言っているが、交流人口や関係人口の人口というよりも、市内の団体が中心という印象を受ける。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主体として何を想定するかということである。観光客やボランティアで来る人もそうではあるが、もっと積極的にまちづくりに関わる人を増やしていくようなことを施策として考えるべきである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が全世界から来ており、それらが交流人口に含まれるが、旅行者の感想について旅行会社が集計しているかもしれないが、それを市として吸収して反映する仕組みはあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光の側面でのアンケート調査は実施している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の感想を吸収できる構造になっているのか交流人口が重要になるのであれば、全世界から来る人の意見を吸収する仕組みが必要である。ヨーロッパの方は、普段着のまま、ペアで街を歩き、コンビニで食べものを買ってお城を見に行くというように、日本人と同様の日常パターンが多い。それを姫路市民は遠目で見ているだけである。観光客が交流人口として重要であるならば、意見を定期的に聞く仕組みが必要である。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動分野の分野目標が前回まとまらなかったもので、今日、二つの政策をやった後で、また意見をいただき、次回までにまとめる。難しい部分もあるが、また後で戻って検討する。</li> <li>・審議に移る。</li> <li>・資料 2－3「市民活動分野 政策 3」、資料 2－4「市民活動分野 政策 4」について、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>[説明資料] 資料 2－3 市民活動分野</p>

	資料 2 - 4 市民活動分野政策 4
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策 3 「市民文化活動の推進」について何かあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術の内容で、日本の伝統文化や伝統芸能が全く出て来ない。東京の国立劇場で姫路城に関する話の歌舞伎を見て驚いたが、そういうものを姫路市民は見たことがあるのだろうか。歌舞伎や能楽といった日本の伝統文化や芸能を見たことのない人も姫路市にはいると思う。そこをフォローするのが行政の役割ではないか。若手芸術家の活躍の中にも、伝統芸能を別を書く必要がある。滅びるものを守ることは、かなり力を入れなければ難しい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疎かにしているわけではないが、この現状分析の中では、たしかに抜けている。現状分析や社会潮流については、基本構想原案には重視する項目を抜粋して記載するが、その中に書き加える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎はほんの一例で、天守物語など姫路にまつわる伝統があるので、それを大事にして、補強してほしい。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す姿、姫路市の方向性について意見はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の定義には、音楽や美術、伝統芸能を含むが、活字文化で本を読むことが第一だと思う。子どものときに本を読むことによって様々なものを吸収する力を養うので、子どもたちに図書館で読み聞かせをするなど、図書館を活用してもらいたい。</li> <li>・子どもに体験をさせようとしても、受け身では体験する機会がない。広めようとするならば、こちらからアプローチする必要がある。小学校や幼稚園で子ども全員に体験させるようにしなければ浸透しない。</li> <li>・社会的に困難を抱える人についても、生活保護受給者は文化施設の入場料を無料とするなどして、文化にふれる機会を作ることにより、文化芸術から生きる力を得て、社会参加することもある。市が積極的に働きかける</li> </ul>

	<p>ことが必要である。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見については、学校教育を所管する分科会と共有する。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出かけていくという発想は重要である。姫路市は広いので、いろんな地域で体験の機会を設けることが必要である。文化拠点に人が集まるだけでなく、文化拠点から情報を隅々まで発信することが必要である。移動図書館はやり易い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、学校司書の配置など、学校の図書館教育に力を入れている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産の姫路城が観光の中心であるが、これが原因で文化活動が停滞しているのではないか。姫路城があるから大きな努力をしていない。コンベンションセンター等で、子ども、高齢者、障害者、外国人が集まるようなイベントをして、姫路城はプラスアルファのような感じで文化を発信していくことが必要である。</li> <li>・大きなお金をかけるのではなく、地域に根付いた文化を発掘して定着させる。例えば秋祭りの獅子舞などが有名なので、年に2日間の祭りだけではなく定期公演などできるようにするとよい。姫路城だけに頼ってはいけなない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路城だけということがあったが、JRの西側に新しくできる駅の投資の話聞いたとき、手柄山公園の改修の話も出たが、手柄山公園のモノレールのことや、軌道のことなどは一切出てこなかった。軌道は産業遺産に登録できる。</li> <li>・南側にも同じぐらいの金をかけたゾーンがあるが生かしていない。50年前に先駆的な設備が導入され、まだ残っているものを、産業遺産にしてPRすることにより、何かが蘇る可能性がある。姫路駅から手柄山まで約2キロしかなく、軌道の跡をウォーキングやランニングコースとしても30分ぐらいで行ける。新しいスポーツゾーンにすることを考えてほしいと提案した。</li> </ul>

<p>分科会副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飾磨の廃線跡の約2kmが投資されて、遊歩道化、ランニング歩道化された。近辺の市民の健康の増進の場所となっており、そういった良い例がある。北側の手柄山の歴史と伝統と産業遺産を何かのかたちで文言化して生かしてもらいたい。</li> <li>・目指す姿に具体的な文言を書くという観点から、市民文化活動が何を指すのかを議論すべきである。おそらく、観光や教育とまた違った観点から位置付ける必要があるのだと思うが、市民の文化活動がいったい何かを明らかにしなければ議論が先に進まない。</li> <li>・市民文化活動の意図することを説明いただきたい。能力のある一部の人がやることと、競争関係がなく自分自身の能力を高める、あるいは自己啓発、地域文化を見直すといったこととは方向性が違うと思う。また、同時に、量か質かという議論があり、機会を増やすこととレベルを上げることは別の問題であるが、それが全て一緒に議論されている。</li> <li>・それを踏まえたうえで、めざす姿について、委員の皆さんが言っていることは問題ないと思う。芸術文化には、地域の伝統や、世界の文化も含まれ、どちらも重要である。これが何を指すのかももう少し噛み砕き、具体化する必要がある。これを読まれる市民の方にはまるで見当がつかない。市民芸術が市民文化活動とどういう関係があるのかということも明らかにするべきである。</li> <li>・意識が高まることは確かに重要だが、それが魅力のある市民文化活動が行われることとの因果関係が分からない。魅力のある文化活動とは何なのか。文脈としては、より持続的や継続的に活動が行われることが重要であり、魅力のあるというのはおそらく市民文化活動をしている人自身がやりがいをもって活動しているという意味であると理解できる。現在の記載だと、「対外的に意味がある」といったようにとらえられる。抽象的であるならば対外的な説明をする必要がある。</li> </ul>
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局として市民文化活動をどのようにとらえているのか説明をお願いします。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術の定義は、文化芸術基本法の中で定義されているものを指す。分野だけでいうと、芸術・メディア芸術・伝統芸術・芸能・生活文化・国民娯楽・出版物・文化財等で、それぞれの分野の中にまた細かく、音楽・美術・写真・映画・漫画・アニメーション等、伝統文化としては、能楽・文楽・落語・漫才・茶道・華道・書道等が入り、文化財も入る。</li> <li>・これに市民が触れる活動が市民文化活動で、市民がそれを行うことと、鑑賞したり楽しんだりすることの両面がある。</li> <li>・文化芸術がどういうものなのか、総合計画では定義をはっきり記載させたい。表現の工夫が必要であると感じる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民文化活動で想起できるものは解釈にゆだねていいのではないか。文化は人間の遊び心であって、定義をすると異論が出てくる。挙がっているもののなかに、ル・ポン国際音楽祭という具体的なクラシック音楽について書かれているが、それを挙げるのであれば、姫路の伝統文化についても並立して挙げてほしいということであり、あまり詳しく、長い説明はいらなと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような意見を求められているのかよく分からない。質問に答えようとすると、具体的なイベント内容や方法論の話になってしまう。それを総合計画に入れるために意見を求めているのか、あるいは政策的なことを言えばよいのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な施策・事業は実施計画に掲げるものである。基本構想の審議をしているので、方向性について意見をもらいたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を増やすためには、お金をかけて美術展やコンサートをやればよいということにしかないのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手芸術家の活躍の機会を増やすために、活躍できる場所をつくれればよいということになる。たつの市では協会をつくり若手音楽家のコンサートをやるような、具体的なアクションプランがある。姫路市でもそういうプ</li> </ul>

分科会副会長	<p>ランを作るのはどうかということになる。図書館の話、教育委員会との協働など議論に様々な話が混ざっているため、副会長がいうように、定義を明確にさせていただいたほうがよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術の説明方法についてはおまかせする。最初に委員全員の共通認識を得ることが重要である。</li> <li>・ただ推進すればよいのではなく、所与の条件の中で何ができるのか考えないといけない。お金をどんどん使って、施設を沢山作ることは不可能であるが、そのなかでも市民が文化芸術に触れる機会をつくれるようにすることを議論する。</li> <li>・これまでの方向性、アプローチとはちがい、金を掛ければよいということだけではなくなってきた。資料の〈参考〉部分の書き方が、どんどんお金を掛ければよいというように見える。そういう意味ではないはずだが、それが伝わるような書き方をする必要がある。</li> <li>・資料の「主な検討課題」のア・イ・ウについても、どのような意見を期待しているのか、事務局の方から頭出しをすればよい。そうしなければ、頑張っって進めていくということで議論が終わってしまう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これについては、市民・地域・企業・団体に期待することが関係してきて、行政がアプローチする部分と、それぞれのプレーヤーがアプローチする部分が合わさるところが、一つの方向性になる。</li> <li>・行政がすることは、お金をかけて活動の場を提供し、機会を増やしていくことであるが、市民や団体がそれにどう協働していくのか、何か新しい動きがあれば意見をいただきたい。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革にもつながるが、人々の自由時間や余暇は文化芸術に触れる時間や余裕にも関係する。そういうことも含めて提案をしてもらいたいということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余暇の時間も重要というのはおっしゃるとおりである。</li> </ul>

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、魅力ある市民文化活動を活発にというのは、市民が受け身になるだけではなく、市民の側から発信していくことも必要である。姫路のコンベンションセンターに有名な芸術がきたとき、各地域の子どもに伝えたいと考えている団体が誘致をしたり、その誘致期間を設けたりする。篠山市ではホールで毎年、シューベルティアードというクラシックのコンサートがあり、街角コンサートのようなかたちで、地元が受け入れている。市民が企画する側になり、発信することが必要であり、そういった市民を育てることも重要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す姿の文言について意見を挙げながら、どのようにすればいいのかという意見をいただく場ではないのか。目指す姿は、大きな目標で包括的なものであるため、目指す姿については広くとらえられる書き方として、その下に細かく書いていくようにするとよいのではないか。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の関係上、次の政策の審議に移る。</li> <li>・具体のアイデアではなくて方向性についての議論をする。それを踏まえて、政策4「国際交流・異文化理解の推進」についてのご意見を願います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す姿の「市民レベル」とは何なのか。市民レベルは人によって異なる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が外国人と交流しているイメージで、仕事の付き合いということではない。海外からの観光客や、姫路に住んでいる外国人を想定する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民レベルで」というよりは、「地域の中で」といったことである。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深刻な問題としては、これから外国人労働者が増えていくなかで、どのようにインクルージョンして、生活の中で実際に付き合っていくかが課題になっていく。そのあたりが漠然とした書き方で、課題が浮かばない。外国人労働者は急激に増えており、すでに企業によっては4～5割が外国人</li> </ul>

事務局	<p>労働者だということもある。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市は自治会が強く、地域コミュニティで成り立っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会では、外国人が多いので翻訳機を導入している。翻訳機を使い、ルールなどを伝えている。姫路には東南アジアからの外国人が約 1.1 万人いる。外国人が 20%にもなる自治会がある。外国人を取り込むような施策が必要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この先急速に在住外国人が増加する。お互いがルールを理解することが喫緊の課題となっていく。</li> <li>・外国人労働者の福祉の問題も関わる。災害時に在留外国人が弱者となる。そういったことを計画にもっと多く盛り込む必要がある。こういった問題が発生するのか、こういったことが想定されるのか、専門家の意見を踏まえて入れるべきである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育」は具体的にどのようなことを行っているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に、英語・ベトナム語ができる人を派遣して対応している。何年か前から地元の方が中心となって対応している。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから外国人が増えていくという事実自体を市民の方に理解してもらうために、問題認識を目指す姿に書く必要がある。現在はきれいなことしか書いていない。目指す姿の前半の記述は姫路城にくる観光客との国際交流を想定している。また、現在は在住外国人の集住パターンはある程度決まっているが、そういった構図が 10 年後には変わってくるという事実認識をしていくことが重要である。</li> <li>・そのうえで、どのように文化理解や共生をしていくのか、目指す姿で示すべきである。市民の認識のちがいもあるので、正しい状況の共有化が必要となる。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背景の所に書き込む。もう少し問題意識として書き込み、政策に反映していく。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動分野の分野目標についてご意見をいただく時間がないため、次回にこれまでの意見を集約した案を出して、ご意見をいただく。</li> <li>・次の行財政運営分野に移る。ご説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>[説明資料] 資料3 行財政運営分野 分野目標 (案)</p> <p>資料3-1 行財政運営分野 政策1</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず行財政運営分野の分野目標について、ご意見ををお願いします。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がどうこうというよりも、市の中の財政の話なので難しい。信頼を得ることが重要で、情報提供や経費削減は重要であるが、市民感情としては、不祥事がないことや、談合がないということが信頼に関わる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事がないことは大前提である。これから縮小していくなかで、どれだけ市民と痛みを分かち合うかということで、信頼を得るためには、情報を発信して共感を得る必要がある。共感を得て、協力を得ながら体制を整えていく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この政策のテーマは、まずは行政側の姿勢を書くところであって、市民ニーズが多様化しているが、それでも誠意を持って対峙することが必要である。市民として税金を納めて、税金で行うことの信頼関係で成り立つので、公の務めをするという行政側の心構えや姿勢のようなものがあれば納得がいく。目指す姿に入れてほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す姿に心構えを入れるよう検討する。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野目標の中に広域行政という話が出ているが、これは播磨圏域連携中枢都市圏のことなのか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域行政については8市8町の播磨圏域連携中枢都市圏もあれば、中核市としてのつながりもある。圏域周りの市、同じレベルの中核市の協力もある。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策1「持続可能で信頼ある市政の推進」の目指す姿や方向性についてもご意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼ある市政推進には情報発信、情報開示と住民参加が重要だと思う。良いことは言いたくなるが、悪いことはなかなか言いづらい。「行政はこういうことで困っているの住民の方のお力をお借りしたい」と、良いことも悪いことも言っていただいたほうがいい。</li> <li>・弱みの④にもある公共施設の老朽化の問題などもあり、これから施設の取り壊しや改修を選択する必要がある。そういったことも住民とじっくり話をする場を設ける必要がある。どうしても「取り壊そうと思うが」という話をした段階で、住民から反対運動が起きることになりがちで、住民と市が敵対的になりがちである。そうではなく、よりよい姫路市をつくるために、市民がどう行政に関わっていくか考える場所が必要である。</li> <li>・特に、人口が減り、税収も減っていく中で、今までのように行政サービスは当たり前のように天から降ってくるものと市民も考えがちだが、そうではないのだということをおわかっていただくために、情報発信はかなり重要になってくると思う。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういう方法がいいのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば SNS がいいのか、あるいは「広報ひめじ」、自治会の回覧板などある。事務局説明でアプリの話がされたが、何人の方がアプリをダウンロードして、どのくらい通知がきているのか私はわからない。そのようなアプリがあることを知らなかった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会構造の変化として、核家族化が進んで、超高齢世帯が加速度的に増</li> </ul>

	<p>えてきていて自治会も問題にしている。要援護者支援事業の対象が増えてきた中で、やはり外国人のマンパワーが必要な時代になってきた。地域のコミュニティを維持するには若い外国人の力が必要である。簡単に市民ニーズと書いているが、このニーズが本当に多様化している。そのあたりをどのように表現して全体的に網羅したかたちで対策するのか。表現を考えていただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「質の高い」というのを言い切ってよいのか、これからは質も下げないといけないという話もでてくる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質は定量的に測れるものではないので、こういう表現は使わない方がよいのではないかと。「努力します」という風にした方がいい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政サービスを統廃合することで質が上がる部分もあると思うが、全部が全部上げることができるとは私たちも考えていない。限りある地域資源の中でできる最善、最適なサービスを質の高いという表現をさせていただいたつもりである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「限りある財源の中で」とか「できる範囲で」という表現を入れさせていただく。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市の市民の意識の高さなどを考えると、姫路市はPFIなど民活の導入には保守的な感じがする。公共サービスもある程度は民間に委ねた方がいいのではないかと。そういった文言もあってもいいのではないかと。それが協働の推進の一つの成果ではないか。協働事業を推進しているが、市役所と市民との役割分担の線が変わらない。協働事業を推進しているのは、市民と市役所の役割を市民の側へ寄せるためではないか。その変化があまり起こっていない。公共施設の適切なマネジメントや、弱みの⑥の「民間の資金やアイデア、技術を活用した公民連携の実績が少ない」といった辺りがもっと活性化するというのを、目指す姿の中に入れてほしい。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの施設整備の中では、PFI なども検討していくことにはなっている。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動・ボランティアサポートセンターも行政だけでやるのではなくて、民間にやってもらってもいいのかもしれない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市ぐらいの規模であれば、指定管理に出したりするのが通常ではないかと思う。今のところ行政 100%で珍しいと思う。PPP/PFI という行政の施設管理も当然視野に入れる必要があるし、先 10 年ということでは、行政の職員の負担軽減として、ビッグデータを使ったより効率的な行財政運営はできると思う。情報政策の方が様々なものを導入しているにも関わらずあまり活用されていないという現状もあるため、そういったことも入れていった方がよい。総合計画で言うことでもないような細かいことが多くあるが、それを言う場所が今どこにもないというのが現実である。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明性や意思決定のプロセスについてはミスもあると思うので、それが検証可能でないといけない。それが信頼ある市政を推進している姿勢であり、透明性を担保する努力である。公共施設マネジメントの PPP/PFI は手段であって、そこに至るプロセスを示すことが重要である。この目指す姿のところでは、手段は書かれているが、そこに至るプロセスについては理解できない。そもそもこういったことをする意思決定の仕組み自体を透明化し、市民が把握できるような仕組みにすることが重要である。</li> <li>・あらゆるものを PPP/PFI にするというのは本末転倒であって、そのプロセスを市民が納得できることが重要である。全てを PPP/PFI にする必要は全くないと思うし、なぜそれがそうなったかを共有できることが重要であり、そのためには「市政やまちづくりの情報が住民等に共有されている」ということの中身が問われると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要なお指摘だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちなみに、「市政やまちづくりの情報が住民等に共有されている」と書か</li> </ul>

事務局	<p>れているが、まず住民が参画しているかどうか、情報開示されているのか、というところを書き加えれば共有につながるのではないか。共有がいきなりきているのでプロセスがない印象になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現を再検討させていただく。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他はいかがか。時間の関係上、分野目標について議論できなかったが、1月の前に叩き台がでるので、その時に出てきたものをみなさんに議論いただくようにしたい。これで第1分科会の第3回会議を終わらせていただく。</li> </ul>
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのご指摘をいただき感謝する。市民活動分野は総合計画の肝であり、他の分野にも関係する。令和元年度の分科会については最後となるが、分科会としては、来年の4月に文案を提示するので、それをご議論いただきたい。</li> <li>・これまでの分科会を踏まえて、第1分科会の中間報告を分科会会長にお願いしたい。次回全体会議は、令和2年1月21日（火）午後2時から、ホテル日航姫路で開催させていただく。</li> </ul> <p>5 閉会（20:10）</p>